

☆心に残っている
あのこと このこと☆

今回は、志向を変えて職員に「私の、我が家の正月」と題して原稿を募集しました。いや～あ、様々な正月などの様子が寄せられてきました。

青い宝石、見つけた! 宝は、足元にあり!

<驚きの発見1> 身近な雑草に宝石。副院長のふとした好奇心から購入した子供向けの科学絵本「かがくのとも」通巻575号、「リュウノヒゲ ふゆに みつけた あおい たね」を読んだ。



年末に泊まった旅館の庭を捜すと、あるあるブルーの種、草の中に潜んでいる。三郷に戻り、近くの散歩コースを注意して捜すと、又あるある。身近な雑草リュウノヒゲを掻き分けて見つかる、青い宝石!!

<驚きの発見2> 農家の庭にもひっそりと群生。懇意にしている農家の庭にも、ヒゲの塊りがあり、「ジジのヒゲ」と呼んできたらしい。50数年前にここに居を構えたが、昔から生えている。「雑草だからね、強くてどんどん増えて、上にも広がろうとするので、苺ったりするよ」とやや邪魔者扱い? 掻き分けると、あるあるブルーの種。「気がつかなかったね」と80代の農民。探し出した孫たちは、お年玉まで頂き大喜び。

<驚きの発見3> 汎用する漢方・生薬の材料だった。ネットでリュウノヒゲを調べると、名前の由来は、竜の口ひげの連想からだ、別名がジャノヒゲ。草が蛇のように見えることからだと。そのまた別名がばくもんどう(麦門冬)だが、根の塊状部を乾燥させた生薬の名で、漢方「麦門冬湯」の主成分である。滋養・強壮・鎮咳などに、私も良く処方する。喉を潤し粘稠な痰を出しやすくする優れものだ。



<驚きの発見4>リュウノヒゲの花言葉は、季節を問わず緑の葉っぱを茂らせている様子から『変わらぬ想い』『不変の心』『深い思いやり』だと。何とも、私好みな言葉だ!

4つの驚きの中で、2017年は明けた。皆さん、Happy New Year!!!!

クリニックふれあい早稲田
院長 大場敏明

心も体も、ぽかぽか ウキウキ



昨年末から話題になっている「恋ダンス」ダンスなんてしたことない私ですが、スタッフと一緒に練習しています。

ステーションの朝は底冷えして暖房をつけても、白衣に着替える時とても寒いんです。そんなときには、恋ダンス!! からだもポカポカ温まり、訪問前のいい準備体操になります。ウキウキして心も踊ります。

今年もいろいろなことにチャレンジして、楽しい1年にしたいと思います。

アカシア訪問看護ステーション
小沢亜紀子

酒豪の叔父さん 啞然!!

うちの父は秋田出身で一番上の伯父達は現在も秋田に住んでいます。その伯父達が三連休少し手前から、埼玉に来ていました。一緒に食事をしに行くと言うことになり、大人同士なのでアルコールも頼むことに。伯母は誰もが認める酒豪(本人は認めていませんが、逸話は数知れず)、その影に霞んでいたのが伯父。

その伯父も生ビールを頼んだ後、お店の人に焼酎の水割りを頼みます。他の人と少し違うのは、「焼酎と水を分けて持ってきてくれ」と。出てきたのが、ロックの焼酎と水。伯父が焼酎に口を付けたところ、「なんだ、これは！こんなに薄いんじゃない！」と驚くべき発言。聞けば家ではストレートの焼酎と水を交互に飲むのだとか。確かにそれに比べたら薄いかもしれませんが(▽▽) 私もその酒豪が揃う中巻き込まれ、まだ飲みきっていないうちから梅酒を頼まれ…。お店が週末2時間制で良かったなとつくづく思いました。

新たな伯父像を発見した日でもありました。誤解されそうなので、付け足しておきますが私はお酒は飲みますが酒豪とは違います。



秋田の焼酎
「时空の扉」
* 本文とは
関係ありません

地域活動支援センターパティオ

石田めぐみ

熱っ!!! 安静のお正月



両親を連れて正月の買い出しへ行きました。左折する際、車中でお湯を沸かしていたケトルが転がり足元へ…年の瀬も迫る大晦日。83歳になる母親が「バカだな」とつぶやく。火傷を負ってしまった私は左足が痛くて、痛くて救急外来へ。



火傷した時じゃありません

マスクをして咳をしている人、冷えピタを貼って元気に駆け回る子ども、杖を持ちながら腰をさする高齢者の方など溢れ返っていました。他人事の様になり「この年末に大変だなあ」と思いながら2時間程待ちました。私の順番になりいざ診察室へ。一人の先生が二つの診察室を歩き来して、診てくれていました。しかし、隣の診察室からは、ただならぬ雰囲気。「脳梗塞の疑い」「今から紹介状を書くから脳外科の病院へ」「早く！」などと看護師へ指示を出していました。そこへ「さあ君はどうしたの？」と先生登場。「火傷が痛いのです」と私。足の状態を診た先生は「こんなの2,3日もすれば治る。お風呂も入ってよし！ 変に消毒するより水で洗い流した方がよっぽど清潔だ。」と言い、一応、化膿止めを出してくれました。少しほっとしながら隣の患者さんの方が大変だったよなあ」と思いながら帰宅しました。

すっかり安心しきった私は、正月だし、お酒も飲み、エビやカニなどのお正月料理も食べ、お風呂もゆったり入って過ごしました。

それは長く続かず…左足の痛みは続き、現在も通院中。靴下を脱ぐ時の痛さは(-'*)ﾌﾌです。右足には痛風も現れて、両足が痛くて(泣)『安静のお正月』となりました。

障がい福祉相談支援センターパティオ

山田一三

我が家のお正月

クリニックふれあい早稲田

医事課 川井 夕鶴

クリニックふれあい早稲田で事務受付をしています川井です。

私のお正月は、家族4人(主人・子ども2人・私)で初詣に行くのが恒例行事となっています。埼玉に引っ越してきてから12年が経ちますが、毎年欠かさず越谷の久伊豆神社にお参りに行っています。(以前は青森に住んでいました)

長い参拝者の列を家族4人、猿団子のようにになりながら並び境内におさい銭を投げ、1年の無事を祈り、おみくじを引いて、お守りをいただいて帰ってくる。

今年は娘が中学3年生になるので、高校受験を頑張れるよう、いつも以上にお祈りしてきました。



← チョコバナナ食べながらVサイン。川井悠真 7歳です。今年もいいことがありますように。

「イケメンだるま」 願い叶って両目に眼が入りますように。 →



また例年だと通りすぎてしまう、だるま屋さんに足を止め、店主のおススメのイケメンだるまを購入してきました。息子はチョコバナナと射てきを楽しみ、娘は甘酒を美味しく飲んでいました。ありきたりかもしれませんが、家族4人揃って初詣に行くことがお正月のぜいたくだと思っています。子どもが成長すると、一緒に出掛けることも少なくなるので、今を大事にしていきたいと思います。



小さなつどい・10周年記念座談会開催 (2016年11月12日)

医療法人財団アカシア会

統括部長 高杉 春代

認知症の人と家族の会の小さなつどいが三郷市で初めて開催されたのが2006年8月でした。当日クリニックふれあい早稲田の3階和室は介護家族でいっぱいになったそうです。大場先生が日本認知症の人と家族の会埼玉県支部に協力要請し、実現したのです。

そもそも、認知症の人と家族の会(当時は呆け老人を抱える家族の会)が発足したのは、今から36年前の1980年です。その時代認知症のことはまだ知られておらず、利用できるサービスも施策もない時代でした。



介護する家族が誰にも理解されず、孤独に悩み苦しんでいることを知り、家族同士で話し合い支え合う家族の集い「小さなつどい」が始まりました。やがて苦労話を話し合うだけでなく、横の連絡も密にして対策の遅れを取り戻す社会運動を展開しようと家族の会が結成されたのです。2000年に介護保険がスタートし、介護の社会化が実現しました。

認知症の共同生活介護(グループホーム)は認知症介護の目玉でもあり、家族の会の運動が実り喜んだと言います。その6年後三郷市で小さなつどいが開催され、当時参加した大倉さんはこれから新しい時代が始まると感動したと言います。認知症の人を介護して日々悩んでいる家族がこんなにもたくさんいて、お互いに知らなかったのです。と..

大場先生と介護者家族ではじまった三郷の小さなつどいも10年を経て、今では各生活圏域毎に地域包括支援センターの協力のもと定期的に20～30人が参加されて開催されるようになりました。医師も大場先生1人から3名になり、多様な職種も参加しています。こんな活動の歴史をひもときこれからの活動の意義を確かめ合う、基調講演と座談会でした。

当日の文化会館大会議室は68名の参加を得て活発な討論が行われました。



◎「小規模多機能型居宅 えがお」の寺田慎さんが、フェイスブックに書き込みました。

お年寄り転倒！！ その時、寺田さんは…

今日は休みだったので、娘の幼稚園にお迎えに行きました。帰りに少しだけ買い物をするために酒屋に寄り道。娘が一人でお金の支払いをしている最中にふと視点を外に向けたら… まさかの… おじいちゃん、転倒を目撃！！ あわてて駆け寄ると… 眼の下をぱっくりと切って 血がポタポタたれていました



本人「大丈夫」というものの結構な出血。テッシュもなにももっていなかったので、近くを通りかかった老夫婦に協力を依頼し、取り急ぎテッシュで応急の圧迫止血。結構な出血ですが本人は「大丈夫、家に帰って消毒する、近所だし…」と…。が、家に帰って誰か居るか確認すると、一人だと…。結構な傷だし、家で具合悪くなっても心配なので、病院に行こうと説得し、気にして出てきてくれたお店の主人に、119番を依頼しました。その間、娘が飛び出したりしないようにお店のおばあちゃんが娘を見てくれていました。そしておばあちゃんの厚意で新品のタオルを止血用にいただき、救急車の到着を待ちました。


一人暮らしのお年寄り…。何かをしてあげられるわけではないけど、このまま帰すのも…。結局救急車到着まで一緒に待ってくれた老夫婦。救急車に乗ったのを確認し、巻き込んでしまって申し訳ないと伝えつつ、一緒に助けてくれて本当にありがとう、助かりましたとお礼を言って帰りました。

一人で全て対応をするのも可能。でも協力し合って一つの成果を産み出す。地域の力を高めるために必要なステップだなあ…なんて自分勝手に思ったのでした。

やはり地域の力を高め、できる事を少しでも担ってもらいながら、皆の少しずつをかき集めて大きなこと、つまり一人ひとりの人生、生活を支えていく。

大変だったし、ドキドキしちゃいましたが、本当によい機会ももらえたと感じたのでした。

無事に家に帰れていることを祈ります。

★多くの  やコメントが寄せられていました。



◆編集者の一言◆

障がい福祉課の判断に感謝！！ しかし???

Jさんは、筋ジストロフィー(神経性の難病)のため、全身の筋力が低下していますが、手指が動くため電動車イスを操作して移動します。また、パソコン等で社会とも繋がり生活していますが、困った事があります。ベッドに寝ると筋肉が薄くなったため腰骨などがマットに触り痛みがあります。そのため夜間は何度となく家族が体位交換やクッションを変えるなどしていました。(お母さんは、入浴中にコックリしてお湯を何度も飲んだと…)

訪問看護師から「エアマットにすれば、痛みの軽減になると思うが、制度活用ができないか」と相談がありました。早速、障がい福祉課に相談。3年前に電動ベッドと特殊マットが支給されています。エアマットは、特殊マットに入ります。耐用年数は5年です。5年未満の場合は、障がいの状態の変化で支援用具が合わなくなった場合や、著しく破損して修理不可能などの場合に限りです。耐用年数未満の給付は簡単ではありません。

障がい福祉課に、現状を説明し現在使用している特殊マットでは、痛みの軽減には繋がらない事とエアマットの必要性を説明した結果、特殊マットとして再給付可能と嬉しい返事がありました。エアマットは20万円以上します。ところが、基準額が19600円で、18万円以上の自己負担が掛かることとなります。自己負担できない場合は、エアマットをあきらめるしかありません。費用と基準額の差の大きさに愕然としました。基準額の再考を是非お願いしたいと思います。今後、地域課題として提起していきます。

Jさんは、幸い自己負担が可能でエアマットが入り、痛みがずいぶん軽減しました。ホッ…。

◎今年もアカシア通信を通して、法人事業所の取り組みなどを発信していきたいと思います。(長島)